

Pandemic（パンデミック：世界同時多発）は本当に来るのか？

今年1月、箕面医師会報に Pandemic の話を書いた。まあ、もっとも無難な題を選んだのであるが、もっと過激なものは今回は遠慮した。この時点では、現在世界中で猛威をふるっているいわゆる「新型インフルエンザ」は影も形もなかったので、この時の「パンデミック」とは H5N1 のトリ型・インフルエンザのことであった。論旨は大きく分ければ①タミフルを使い過ぎるな、使いつぶすな！であり、②は以下のようなものであった。

A 型インフルエンザ・ウィルスは、頻繁に突然変異を発生しているという。鳥インフルエンザ（H5N1）は、世界中で、鶏なら鶏ですべて同じ表面構造をもっているのだろうか。（ボクは国によって少しづつでも、表面構造に変化があるのではないか、という意見である。）日本でも、各県や地域によってそれぞれの鶏舎の鶏が同じ表面構造の鳥インフルエンザに罹っているのだとすると、誰が、あるいは何が媒介するのだろうか？ 仮に渡り鳥だとすると、渡り鳥は一軒一軒律儀に鶏舎に寄ってウィルスを撒布してまわっているのだろうか。・・・まあ、同じウィルスとしておきましょうか。

「頻繁に」突然変異があるのなら、ウィルス側からみれば、せつ

かくヒト→ヒトに変異していても、今度はヒト→ヒトではなく、ヒト→ブタなんかに変異してしまうかも知れない。・・・だから Pandemic の話になると、いつも懐疑的になる。

トリ・インフルエンザの特徴は、現在のインフルエンザが、関節痛などが合併してもリレンザが有効なことからみて、ほぼ呼吸器に限定されるのに対して、全身性に広がりをもつことである。だから、死因は、脳症ではなく**多臓器不全**であるという。すると現在手持ちのタミフルとリレンザとを比較すれば、呼吸器にしか分布しないリレンザではトリ・インフルエンザには太刀打ちできず、いったん吸収されるタミフルでないと効果が期待できないことである。・・・ところが今年の A ソ連型インフルエンザ・ウィルスは、ほとんどがタミフルに対する自然耐性だということから話が混乱する。突然変異を誘発することができないのなら、いずれ自然耐性でなくなるまで突然変異が起こる**僥倖**を待ちますか？

吸入ができない乳幼児はやむを得ないが、インフルエンザ・テストで陽性になったとしても、タミフルが無効なら使用する意味がないし、リレンザに変更しないと「治療をしていない」あるいは「治療をしているふりをしている」ことになる。

①について、どうも安易に（つまり条件反射的に、あるいはこれしか知らないように、）タミフルばかり処方しすぎている、というのが小生の意見で、将来発生するだろうと考えられている鳥型インフルエンザの症状をみればむしろリレンザを使いつぶしてもいいくらいに思っている。今タミフルを使い切ってしまったらいざ本物のトリ・インフルエンザ（ヒト→ヒト型）が大流行したとき、手を拱いているだけ、というのも情けない。数多の優れた抗生物質と同じ運命をたどる気なのではないでしょうか？ 仮に2年後に新薬が完成したとき、いきなり「自然耐性です」だったら、どうする気なのだろう。・・・漢方薬に頼りますか？ 根拠がはっきりしないスタチンを使いますか？ あるいは、いっそ、10年前の何も武器を持たない昔に戻りますか？

パンデミックは、世界中にほぼ同時に発生する感染症のことである。トリ・インフルエンザばかり考えていたら、2009年4月に発生した、いわゆる「新型インフルエンザ」も Pandemic と呼ばれた。たしかにメキシコに端を発し、隣の米国にすぐに広がり、さらにカナダと北米を席捲し、ついで冬季の南半球を含む世界中に広がった。日本には、カナダに交換留学していた高校生が広めたように

表現されてきたが、これが「誤り」であったことはすぐに神戸・大阪の高校生の中に広まり、近畿はほぼすべての県で発生したことで明らかである。これを非難する匿名の連中の傲慢さ、愚かさ、卑劣さ、精神的貧困さについてはすでに述べてきた。 **アホか！** 外国でマスクなんかしてたら、怪しい奴らだということで警察に拘束されるし、下手をすれば銃殺されるかもしれない危険があることを知らない無知な連中であることも指摘してきた。

うろたえきった厚生省は、SARS のときにどこかの国で空港などでの検疫が奏効したことに学んだような姿勢で、成田などで検疫官や都内の医師を派遣して防疫に懸命になったが、インフルエンザには「潜伏期間」というものがあるのを知らない。(実際には SARS にも潜伏期間はある。インフルエンザより長いかもしれない。後述する。) さらには、そこまでしなければならぬほどの重篤なインフルエンザであるかどうか、の判断を頭から放棄している。H1N1 なら、彼らの言う「季節性」インフルエンザと変わりはない程度の毒性だし、もっと軽症かもしれないことは、検疫をすりぬけてしまった「患者」が複数いたことでわかる。これにも触れることはなかった。・・・当初はたしかに「新型」であり、「鳥インフルエンザ」の

可能性も考えねばならなかつたらうけれども、H1N1 とわかつた時点で、検疫のような労多くして効少ない仕事を直ちに中止して、治療体制を構築しなければならなかつたのである。これは多くの人も推奨してきたし、諸外国も笑い者にしていたではないか。ほとんどの患者が中高校生以下であり、**なし崩し的に（原則）禁忌であつたタミフルを使用してきた方が問題だ。**・・・いずれにしても、不幸にして亡くなつた人がいながつたのがせめてもの救いである。外国では、かなりの死者がでてゐる。これには、経済的な理由から治療を施せなかつたことも考えねばならない。・・・さらにタミフルを10代の患者に使用させて欲しいという製薬会社の要求は拒否した。・・・マスコミはこれら一連の経過を詳細に検証したかどうか。単にはしゃぎまわつて、不安を煽つただけではないか。

SARS の時に成功したからとつて、同じ発想では哀しい。SARS は、一説に、日本人には罹患しないという人がいる。これは DNA レベルの話で、現に SARS 患者が天橋立に旅行したけれども誰にも感染しなかつた。SARS を発症したのは中国人がほとんどであり、例外的に SARS を発見し「オレを隔離しろ」と言つて倒れてしまつた「**勇敢な志の高い**」白人医師くらいのものであらう。・・・今恐怖

心とともに危惧しているのがトリ・インフルエンザのヒト→ヒト型への変異である。まるで 60 年前から言われてきた関東大地震のように、いつ起こってもおかしくない、と言われ続けている。

2009.07.07.

この文章を書き上げたとき、「新型インフルエンザ」が再び小学生や高校生の中に流行しているという報道があった。学校閉鎖にもなっているという。・・・すると、このウィルスの突然変異の特徴は、「**季節を選ばない**」ことではないか。またごく一部であったが「消化器症状があるらしい」情報であったがどうやらはっきりしたものではないようだ。これに**タミフル耐性**が加われば、再度猖獗を極める可能性がでてきた。ウィルスは湿気に弱いというが、たとえばタイやベトナムのような南国にインフルエンザが流行するのと同じ状態が生じていることになる。

ワクチンの作成が急がれているらしいが、24 時間体制で頑張っているのだろう。・・・ところで、**ワクチンができたとき、「いったいいつ接種すればいいのだろう？」** 一般にワクチンは接種後 2～3 週間後から効果を発揮し、約 3 ヶ月間持続する、というのがわれわれの理解であった。・・・効かないから打ちません、と言った教

授だったかがいるのだが、実情を知らないあるいは有効かどうか判断できない人に過ぎない、と思っている。ただし、神戸で最初に「新型インフルエンザ患者」を発見した医師が褒められているのだが、その理由のひとつが「この高校生はワクチンを接種しているのにどうしてインフルエンザに罹患したのだろうか？」がきっかけという。それなら、(見つけたことに対する賞賛を惜しむものではないが、)この医師は**ワクチンの限度を知らない、または知らなかったことが幸いした、**と言わざるを得ない。ワクチンを接種していてもインフルエンザに罹患することは、素人でも経験的に知っていることである。そういう人は二度とかどうか不明だが、接種しに来ることはないようだ。・・・ボクの判断では、**罹患するのと重症化するのとはまったく異なるのだが、**教授を始め「治療に懐疑的な医師」がいて声高らかに騒ぐからこれを信じ切ってしまうと、せつかく治る病気まで悪化させてしまう患者がいることであり、そういう意味では彼らの罪は重いと**言わざるを得ない。**まあ、鯛の頭も信心から、といただきますから、信じる方にも問題ありですが。

彼らに、では風邪をひいたらどんな治療をしますか？と尋ねた人があって、苦しんだ挙句、われわれが効かないと判断したような(気

休めの) 薬をのみます、と言ったから鼻でせせら笑う結果になる。

先の医師会報で言いたかったことは、ウィルスはいつまでも最初にみつかった時点の性格を持ち続けるものではない、新たな性質を獲得する可能性がある（つまり薬が効かなくなる可能性）のではないかと、ということと、**タミフルを濫用するな**（もう遅いかも知れないが）、ということである。今開発されている新薬についても同じことで、濫用すれば効かなくなるぞ、と言っているのである。現にこの冬の A 型インフルエンザをしらべて、35 株のうち 34 株までタミフル耐性であったという。すると、インフルエンザ＝タミフルという常識が消えてしまって、・・・それでも条件反射的にタミフルを処方する連中が大勢いて、「治療しているふりをしていた」結果になったことに気づいていない。患者が言う、「いっことも効けへん！」

このインフルエンザは過渡的なもので、トリ・インフルエンザに対する貴重な教訓をいっぱい遺してくれた。保健所も医者も、目の前の患者のことを第一義に診ながら、全体の薬剤の使用を注意しなければならないだろう。緊密な連絡をしながら治療するという原則を忘れるべきではない。その意味で保健所の役割は大きい。

2009.07.10.